

日本新生児成育医学会 2024年度 第3回理事会 議事録

日 時：2024年8月6日（火）18：00～19：45

形 式：Web会議システム Zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、諫山哲哉、落合正行、影山 操、河野由美、日下 隆、
佐藤義朗、東海林宏道、長 和俊、徳久琢也、中西秀彦、難波文彦、飛弾麻里子、
水野克己、森岡一朗、芳本誠司、和田和子（各理事）
与田仁志（監事）、荒堀仁美、北東 功、山田恭聖（各幹事）

欠席者：長谷川久弥、細野茂春、廣間武彦（各理事）、中村友彦（監事）

（敬称略）

議 事：

議事に先立ち、高橋理事長より定款41条に則り、出席者が開催可能人数に達しており、理事会が成立する旨説明があった。

1. 理事長報告

1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは1件、その他のお知らせなどは2件であった。

2) 2024年度会計途中経過報告の件

10～6月までの会計報告として、会費の納入額が増加しているが、これは会員数の増加によるものではなく、退会者が少なかったためと考えられる。

3) 非医師入会の件

大学の名誉教授、臨床心理士の方より入会申し込みがあった。

4) 日本小児科学会より用語委員会委員推薦の件

これまで委員であった細野理事が任期満了となった。後任として用語委員会の清宮綾子委員を推薦した。

5) 日本小児科学会より小児慢性疾患委員会委員推薦の件

日本小児科学会より本学会から委員推薦依頼があり、引き続き芳本誠司先生に依頼した。

6) 日本小児科学会より移行支援委員会委員推薦の件

日本小児科学会より本学会から委員推薦依頼があり、引き続き芳本誠司先生に依頼した。

7) 日本小児科学会より自律的意思決定あり方検討WG委員推薦の件

日本小児科学会より当学会から委員推薦依頼があり、引き続き和田 浩先生に依頼した。

8) アトムメディカル株式会社の会員サイトへ本学会の「災害対策関連情報サイト」リンク掲載の件

アトムメディカル社より7月から立ち上がる会員サイトの周産期医療・看護に関する情報を掲載するサイトに本学会の災害対策関連情報サイトのリンクを掲載したいと希望があり、了承した。

9) 日本医学会連合 診療ガイドライン統括委員長会議出席の件

日本医学連合会より2024年9月6日（金）開催の第2回診療ガイドライン統括委員長会議に学会代表者とガイドライン委員会委員長に出席するよう依頼があった。

同日、高橋理事長はFAOPS 2024に出席のため森岡副理事長が代理で出席し、また諫山委員長もFAOPS 2024に出席のため、医療の標準化委員会の有光威志委員が代理で出席する。

10) 内科系学会社会保険連合（内保連）内視鏡委員会委員交代の件

これまで内保連の内視鏡委員会に本学会より菅波佑介先生が参加していたが、菅波先生が第一線から離れたこともあり辞任され、山田洋輔先生に交代した。

- 11) 委員会統廃合・名称変更の件
前回の理事会で、委員会の統廃合・名称変更について承認されたが、実施は2025年度からとなる。
- 12) 仁志田博司賞設立の件
前回の理事会で承認された「仁志田博司賞」の応募を受付している。締切は8月31日(土)となる。
- 13) PAS (Pediatric Academic Society Meeting 2025) シンポジウム案募集の件
日本小児科学会よりPASにおけるシンポジウム案の募集があり、理事のメーリングリストで募集したところ、3名の先生から4件の応募があった。
日本小児科学会へ応募したが、今年度は採用されなかった。
- 14) 米国小児科学会 2025年度学術集会における発表者推薦の件
今年度は2名の先生から応募があり、選考の結果、難波理事より推薦のあった西口 亮先生(国立病院機構長崎医療センター)を本学会より推薦した。
- 15) 「早産児動脈管開存症治療ガイドライン(改訂)」の推奨総意形成会議パネリスト招聘の件
本学会で2010年に策定した「未熟児動脈管開存症の治療ガイドライン」の改訂にあたり、日本小児循環器学会より武井黄太先生、小泉淳一先生に、日本先天性心疾患インターベンション学会より杉山 央先生に参加いただくこととなった。
- 16) ホームページ掲載データの転載許諾の件
3月25日付けで学会ホームページに掲載した「新生児慢性肺疾患分類の改訂」について転載許諾申請があった。本データにおいて、著作権が本学会にはなく許諾はできなかった。
- 17) 新代議員へ査読の専門分野と希望委員会確認の件
7月31日(水)を締切として、新代議員250名に向けて査読の専門分野と希望委員会の登録依頼を発信した。
8月6日現在、230名の登録があった。
- 18) 「先天梅毒診療の手引き2023」転載使用料の分配の件
日本小児感染症学会より、過日、本学会が監修団体として加わった「先天梅毒診療の手引き2023」について、転載許諾で使用料が発生した際、監修団体である本学会にも分配がある旨、連絡があった。
- 19) 理事長職務報告
日本小児科学会へ分科会活動報告の提出、通信理事会の発信、問合せ対応を行った。

2. 審議事項

第1号議案 2025年9月期予算および事業計画書の件(高橋理事長・和田理事)

2025年度は暫定フォローアップ認定医の申請料、登録料の収益がある。支出に関してはjoint congress、IPOKRATES JAPANの開催があり国際交流費が大きく占めている。

また仁志田博司賞の賞金の寄附金が納入される予定である。

続けて2025年度の事業計画について説明があり、賛成1/2以上で承認可決された。

第2号議案 第68回学術集会収支予算の件(中村監事・代 高橋理事長)

学術集会の収支予算書について報告があった。学会への返金と納税を行ったうえで収支はゼロになる予定であり、賛成1/2以上で承認可決された。

第3号議案 非会員講演料の件(中西理事)

現在、非会員に講演いただいた際の講演料は一律の金額をお支払いしている。

教育委員会主催のセミナーでは非会員の先生に講演を依頼することが多く、宿泊も伴うことから、教育セミナーの非会員の講演の際は別金額とすることが、賛成1/2以上で承認可決された。8月24日(土)から開催する「第27回教育セミナー」より適応される。

第4号議案 病気・ケアの解説作成WG 解説校正費の件(水野理事)

ホームページに新設するサイトに「病気・ケアのやさしい解説」を掲載するにあたり、解説文の校正を外部委託することが賛成 1/2 以上で承認可決された。

第5号議案 第68回学術集会開催の多職種ワークショップ、参加者募集案内を関連学会へ送付の件（飛弾理事）
第68回学術集会で開催するワークショップ参加者の募集案内を関連学会に送付することが賛成 1/2 以上で承認可決された。

第6号議案 第71回（2027年）学術集会大会長選任の件（高橋理事長）

7月31日（水）を締切として募集していた第71回学術集会大会長に日下理事より立候補があり、賛成 1/2 以上で承認可決された。日下理事より特長のある大会にしたいとコメントがあった。

第7号議案 暫定フォローアップ認定医審査料の件（高橋理事長）

5月31日（金）を締切として申請を受付していた「暫定フォローアップ認定医」の申請に予想を超える、253名の応募があった。審査にあたった13名の委員は1人あたり約200件の書類審査を行っている。負担になっていることを鑑み、他学会と同様に報酬（審査料）を支払うことについて審議した。

フォローアップ認定医の審査のみならず、他の委員会活動や投稿論文の査読においても報酬を支払うべきではないかとの意見があがったが、本学会が公益社団法人であり、労務内容を明確にし、報酬支出の予算枠を作成する必要があるため、現時点では困難であること、査読については代議員の職務であり、現時点では検討していないと説明があった。ただ、査読については日本小児科学会が専門医の更新申請の業績に加えられ、査読業務にインセンティブをつける考え方もあるのではないかと意見があった。

また、審査員数が適正でないのではとの指摘があったが、制度の立ち上げの段階であり審査できる人が限られていた（委員のみ）が、今後は承認された暫定認定医が審査に加われるため、1人あたりの対応数は減ることが説明された。

今年度が最も申請数が多いと思われるため、次年度以降の減少を見越して報酬額を決定した方が良いとの意見もあり、次回理事会で金額を決定することとした。審査料の支払いについては賛成 1/2 以上で承認可決された。

第8号議案 新名誉・新功労会員推戴の件（高橋理事長）

新名誉会員候補に3名、新功労会員候補に22名を推薦することが賛成 1/2 以上で承認可決された。ご本人に諾否を伺い、社員総会で感謝状を授与する。

3. 第68回学術集会（中村会長・代 高橋理事長）

2024年11月8日（金）～10日（日）、ホテルブエナビスタ（松本）

第33回日本新生児看護学会：11月9日（土）～10日（日）

テーマ「Family centered care のこれから」

宿泊予約が困難になっている報告があり、高橋理事長から中村会長へ状況を確認することとなった。

4. 第69回学術集会（高橋会長）

2025年11月13日（木）～15日（土）、パシフィコ横浜 会議センター

第34回日本新生児看護学会：11月14日（金）～15日（土）

テーマ「激動の社会の新生児医療～未来への勇気と希望～（仮）」

日本新生児看護学会は「激動の社会の新生児看護～継続と変革～（仮）」

5. 第70回学術集会（森岡会長）

2026年11月20日（金）～22日（日）、パシフィコ横浜 ノース

6. 各種委員会報告

1. 広報委員会（水野委員長）

- 1) 学会の公式 X にて施設紹介ならびに学会・セミナーの告知を行っている。
- 2) 周産期関連のセミナーについては学会ホームページに掲載している。

2. 病気・ケアの解説作成 WG（長谷部 WG 長・代 水野理事）

- 1) 解説文を 74 名の先生が執筆しており、掲載準備中である。執筆に際し、多くの先生方の協力があったことが報告された。

3. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) IPOKRaTES JAPAN について

- ・開催時期：2025年10月16日（木）～18日（土）の3日間
- ・開催場所：ウェスタ川越（埼玉県川越市）
- ・中国・長沙（開催時期：2025年10月11日（土）～13日（月）の3日間）との joint
- ・テーマ：Prevention and Treatment of Prematurity-related Morbidities
- ・講演者：Phyllis Dennerly、Anup Katheria、Souvik Mithra、Peter Dargaville、Tetsuya Isayama、Hirofumi Sawada、Josef Neu、Ju Lee Oei

2) 日台韓 joint congress について

会 合：The 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatology

日 時：2024年11月9日（土）（第68回学術集会2日目）

会 場：ホテルブエナビスタ 第4会場（長野県松本市）

テーマ：22～23週の管理

講演者：Ming-Chih Lin（台湾）、Ga Won Jeon（韓国）、Johan Ågren（スウェーデン）、Matthew A. Rysavy（米国）、難波文彦（日本）

MOU 締結：San-Nan Yang（台湾）、Min Soo Park（韓国）、高橋尚人（日本）

司会：岩見裕子委員

4. 学術委員会（長谷川委員長・代 高橋理事長）

- 1) 2023年度学会論文賞受賞論文および受賞者は、厳選な審査の結果、以下の先生に決定した。
星野雄介氏（茨城県立こども病院新生児科）
「肺超音波検査を活用した呼吸窮迫症候群に対するサーファクタント投与の予測」
35巻第1号 113-119頁掲載、受理日：2022年12月19日
- 2) 米国小児科学会 2025年度学術集会における発表者推薦の選考を行った。この後、若手新生児科医フェロウシップの選考を行う。

5. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

- 1) PDA ガイドラインの推奨決定会議を8月4日（日）に開催した。
推奨決定会議には他学会よりパネリストを招聘した。
- 2) CLD ガイドラインの推奨決定会議を10月5日（土）に開催する。
それぞれ、推奨決定会議後2～3か月でガイドラインのパブリックコメントへ進みたい。PDA および CLD の未議論の CQ については、来年度に追加する予定である。今後、栄養のガイドラインも作成する予定である。

6. 学会誌編集委員会（東海林委員長）

- 1) 日本新生児成育医学会雑誌 36 巻 2 号を6月14日（金）に公開した。前回の理事会で報告した通り、今号より以下の方法で周知した。
 - ・特集の各論文タイトル、執筆者がわかるデータと QR コード（読み取り後、会員サイトへログイン

すると直接学会誌のデータへ進む)を添付し、会員へ通知

- 学会の公式 X に特集の巻頭言データを添付
- 特集単位でダウンロードできるデータを掲載

学会誌の特集企画で非会員の先生に執筆依頼した際の報酬に関して、今後提案をする予定である。

7. 用語委員会 (細野委員長・代 高橋理事長)

- 1) 日本小児科学会の用語委員会から細野茂春委員長の任期満了 (2年3期)に伴い、本学会の用語委員会委員からの推薦もあり、高橋理事長とも相談のうえ、清宮綾子委員を後任として推薦した。

8. 災害対策委員会 (徳久委員長)

- 1) 第18回 四者協小児周産期災害医療対策委員会 (2024年6月20日)に出席
各学会の状況報告と能登半島地震の振り返りを行った。

高橋理事長より能登半島地震に関わる被災状況の確認があり、徳久委員長より能登半島にはNICUや妊産婦が少なかったため被害は少なかったが、医療的ケア児の把握が難しかったとの説明があった。

- 2) 第68回学術集會にて「災害シンポジウム：能登半島地震を振り返る (仮)」を企画
シンポジスト

上野康尚先生 (石川県立中央病院新生児科)

北野裕之先生 (石川県立中央病院新生児科)

今井一徳先生 (名古屋市立大学病院東部医療センター救急科)

田島幸祐先生 (石川県健康福祉部医療対策課)

田島先生はオンライン参加となるため、質疑応答は難しい。

9. 薬事委員会 (落合委員長)

- 1) 「日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼」、該当なし。
- 2) 「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」、情報なし。
- 3) 「医療用薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査への協力依頼」、情報なし。
- 4) 日本小児科学会薬事委員会よりアシクロビル DS80% 「NK」薬価削除・販売終了に関する事前了承依頼
薬事委員会より以下回答「新生児 HSV 感染症 (疑い含む) では ACV 静注を直ちに開始し、21日間継続する。左記終了後は中枢神経型の患児には ACV 経口薬を6か月間投与するため、経口 ACV の完全販売中止は容認できないが代替供給できる状況であればやむを得ないと判断する」
- 5) 日本小児科学会薬事委員会よりフルコナゾール静注液 50mg/100mg/200mg 「サワイ」販売中止および代替薬の相談依頼

新生児医療連絡会を通じて抗真菌薬の使用状況調査を行った。多くの施設では既にフルコナゾールからポリコナゾールやミカファンギンに切り替えられており、適応外使用や査定事例はなし、沢井製薬のフルコナゾール販売中止に対する中止要望をする根拠は乏しいと回答した。

10. 男女共同参画推進委員会 (河野委員長)

- 1) 代議員選挙に、男性 208 名、女性 72 名の立候補があり、クォータ制の導入により 62 名、全体選挙により 1 名の計 63 名の女性会員が代議員となった。クォータ制により多くの女性会員が立候補した結果、目標の 25% に達した。

選挙結果を委員会のメーリングリストで共有し、今後も女性会員の学会活動推進を検討することとした。制度そのものよりも、女性会員の立候補者数が増えたことがこの結果に繋がった。今後、理事選挙にもクォータ制の導入を検討する。最終目標は女性代議員を 35% とすることであり、今後の検討課題である。和田理事より、今回の結果を受けて、これまで立候補していれば当選していたと思われる女性会員が、職場環境などによって立候補していなかったと考えられる。この結果は他の学会にも影響していくと考

えられるとコメントがあった。

11. フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）

- 1) 2024年度の暫定フォローアップ認定医に254名の申請があった。予想を大きく上回ったため、審査期間を延長して、7月中に委員審査、その後確認審査を行い、委員会で決定後、認定候補者を理事会に提出する予定とした。今回の審査で6名が不合格となり、そのうち2名は救済措置が取られ、4名は差し戻し中である。合格者は通信理事会で承認を得る予定である。
- 2) 申請にあたり、QAをホームページに掲載した。

12. 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

- 1) 本学会を代表して、日本小児科学会の「日本におけるRSウイルス感染症に対する抗体製剤・ワクチンの使用に関するコンセンサスガイドライン検討ワーキンググループ（委員長：森岡一朗）」にて活動し、日本小児科学会のホームページに、以下が公開されている。

「日本におけるパリビズマブ適応追加に関連した注意事項」（2024.5.14）

「日本におけるニルセビマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」（2024.5.22）

「日本におけるニルセビマブの使用に関するコンセンサスガイドライン Q&A」（2024.5.22）

現在、ニルセビマブの保険診療上の要望書作成、「日本におけるニルセビマブの使用に関するコンセンサスガイドライン Q&A」の改訂追記作業、ニルセビマブの定期予防接種化の議論を行っている。今後、Q&Aに流行期終了の課題、来年度の課題、DPCと出来高の課題などを加えたものを、日本小児科学会の理事会を経て追加公開する予定である。

高橋理事長より、アブリスボ投与母体から出生した児のニルセビマブ投与適応について質問があがり、森岡委員長より早産児をはじめとするハイリスク児に関しては投与可能であるが、リスクのない児には保険適用内での投与は難しい旨、説明があった。

13. 教育委員会（中西委員長）

- 1) 第6回 web セミナー「プロジェクト N、NICU を退院したその後」

実行委員：鷺尾洋介委員、寺澤大祐委員

日 時：2024年6月5日（水）18：00～19：30

参加人数：80名

講師：大木 茂先生、網塚貴介先生、南條浩輝先生、荒木俊介先生

アンケート結果を共有した。

- 2) 第10回医学生・研修医向け NICU 入門セミナー

実行委員長：齋藤朋子委員

日 時：2024年6月22日（土）13：00～18：30

形 式：web（Zoom）

参加費：会員；無料 非会員；2,200円

定 員：約50名のところ、48名参加

- 3) 第27回教育セミナーを実施

実行委員長：寺澤大祐委員、実行委員：杉浦崇浩委員

日 時：2024年8月24日（土）～26日（月）

会 場：ホテルグランヴェール岐山（岐阜県）

参加費：会員；16,500円／非会員；33,000円

7月19日時点で36名の参加申込があり、7月26日まで参加募集期間を延長した。

- 4) 第68回日本新生児育成医学会・学術集会

「～意外と教えられていない？～エキスパートから学ぶ学会プレゼンテーションの極意」

日 時：2024年11月10日（日）8：20～9：50

座 長：杉浦崇浩委員、中西秀彦委員長

講演1：大阪大学小児科 北畠康司先生；総論（20分）

講演2：筑波大学芸術系 田中佐代子先生；デザイン面から（20分）

講演3：岐阜県総合医療センター 寺澤大祐先生；ストーリー、語り方、前振りの回収の仕方（20分）

参加者からのスライド修正実体験：今回アドバイスをもらったスライドの修正ポイントとその感想、コメント

総合討論（10～20分）

14. 慢性期 iNO 保険収載 WG（中西 WG 委員長）

1) 急性期以降 iNO 臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコーピングレビュー

- 研究担当者：加藤 晋先生によるレビュー論文投稿中
- Kato S, et al. Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants after 7 days of age. BMJ Open
- 査読者の選定に時間がかかった。

2) 慢性期 iNO の本邦の NICU における実態調査アンケート案の作成と実施

- 宮田昌史先生がアンケート結果に関する論文製作中
- 上記2論文、いずれも投稿の際には、学会名を謝辞に記載する。

3) NO 保険収載に向けての活動

- マリンクロット社との面談2回目（2024年7月）
- WGの活動についてマリンクロット社と共有
- PMDAとの協議も検討していく
- iNO 保険収載を目的とするならば、社会保険委員会協力のもとで、再度内保連へ申請し、次回診療報酬改定時の保険収載を目指す。以前、社会保険委員会が申請した際に却下された。却下された際に内保連から「エビデンスが蓄積されれば申請可」という回答があったと聞いている。いずれにしてもエビデンスの蓄積は必要のため、上記1)、2)の論文を進めていく。

森岡理事より、多くの論文がある中で保険収載のカギとなるのは、ガイドラインや手引きへの掲載の有無であり、例えば現在、JEBNeoで作成しているCLDガイドラインに「慢性期のiNOは世界中で使用されている」と載っていることが重要となってくる。海外のエビデンスは必ずしも必要でなく、アンバウンドピルビンのように国内のガイドラインや手引きでも良い場合がある。学会誌に掲載されている、各学会のホームページに掲載しており誰でもダウンロードできる、といった皆が必要としていると認識され、保険点数をつけなければならないと判断されれば収載される可能性はある、と報告があった。

4) 第68回学術集会ワークショップ「新生児医療に適切な医薬品を届けるために私たちに何ができるのか」急性期以降の一酸化窒素吸入療法(iNO)の適応拡大に向けた学会ワーキンググループの活動を発表予定。

15. 新生児シミュレーショントレーニング普及推進 WG（甘利 WG 委員長・代 中西理事）

1) 2024年6月17日（月）第9回WG全体ミーティングを開催

その他、WG内の小グループごとで延べ14回のZoomミーティングを開催。

2) シミュレーショントレーニングプログラムの制作

「気管挿管」「急変対応」「胸腔穿刺」についてプログラムを制作。それぞれ、1～2回の遠隔βテストを実施して修正し、プログラムを完成させた。

3) 第2回NSimセミナーの開催

2024年7月15日（月・祝日）、第60回日本周産期・新生児医学会学術集会会場近くの貸会議室で開催。受講者22名（当日2名欠席で、出席者は20名）。

セミナーの開催時間は2時間10分で、参加者は「気管挿管」「急変対応」「胸腔穿刺」をローテーションで受講した。

指導者補佐としてWG外から11名の参加があった。

レールダルメディカルジャパン社からマネキン4体、アトムメディカル社から喉頭鏡2セットを無償でお借りした。

4) 今後の予定

①第3回NSimセミナーを開催予定

2024年11月10日(日)第68回学術集会の3日目午前中。

テーマ:「臍カテ」「病状説明」「気管挿管」「急変対応」「胸腔穿刺」のいずれか

②NSimWGとして、第68回学術集会に演題応募中。

第1回、第2回NSimセミナーの受講者アンケート(受講前/受講後/半年後)

③プログラムのマニュアル化

制作したプログラムの指導者用マニュアルを整理し、今後の開催に役立てる。

16. 倫理委員会(飛弾委員長)

1) 第68回学術集会時に開催する多職種ワークショップの準備を進めている。

17. 医療の質向上委員会(長委員長)

1) サーベイランス事業:

①「軟骨低形成症」(調査期間:2021年12月1日~2024年12月1日)

②「気管切開を要した慢性肺疾患」(調査期間:2024年4月~2026年3月31日)

2) フォローアップ事業:

①「低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究」(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 河野班)が進行中

②「NICUを退院した低出生体重児の長期フォローアップに関するアンケート調査」を本学会会員の施設代表相当者を対象に行うにあたり会員データを提供する件について、委員会で審議の上で理事会に提案→通信理事会で審議済

18. 社会保険委員会(佐藤委員長)

学会ホームページに令和8年度診療報酬改定に向けた意見募集の案内を掲載している。新生児医療連絡会でも意見を募集する予定である。

森岡理事より、慢性期iNO吸入療法についても応募すべきであるとの意見があがった。佐藤理事より、現在、日本小児科学会、日本周産期・新生児医学会、本学会の3学会合同で議論している。慢性期iNOについても応募して欲しいと説明があった。

19. 学会将来構想委員会(日下委員長)

特になし

20. 利益相反委員会(廣間委員長)

特になし

21. 診療委員会(芳本委員長)

特になし

22. 医療安全委員会(影山委員長)

特になし

23. 総務委員会(和田委員長)

特になし

24. 調査研究審査委員会(飛弾委員長)

特になし

25. 産科医療補償制度委員会（細野委員長）

特になし

26. 英文誌 WG（森岡 WG 委員長）

特になし